

理科授業の充実に向けて!

パート1



平成26年3月に福島県教育委員会より「理科学習指導プラン」が発行されました。その中から、授業充実に向けた大切な内容をシリーズで紹介します。

1 授業を振り返ってみましょう

理科の授業では、実験・観察に基づき探究活動を展開することが多く、子どもたちが主体的に学習に取り組んでいるかどうか重要です。

右の8つの項目は、子どもが主体的に理科の授業に取り組んでいるかどうかを振り返るためのポイントです。

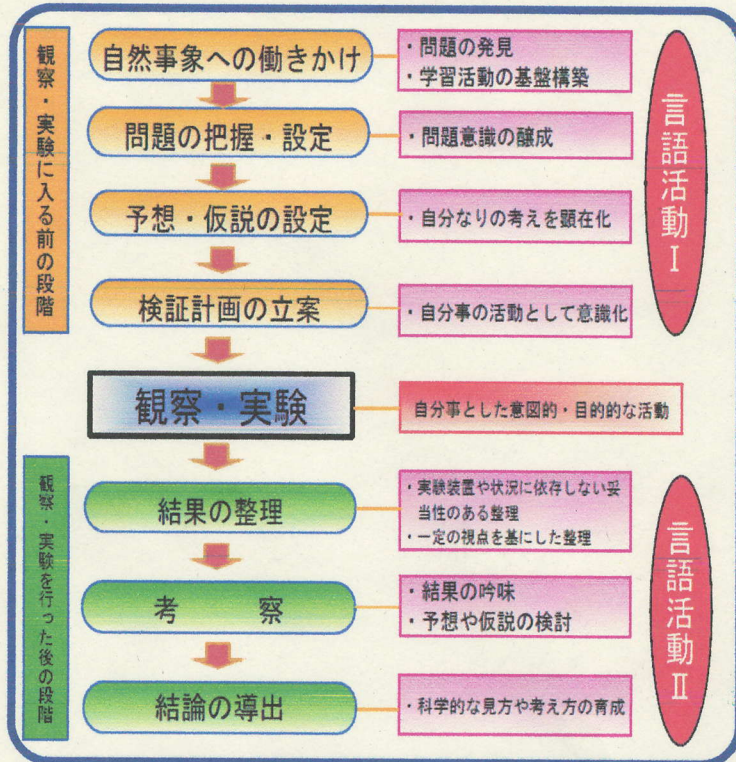
□を✓してみましょう。

子ども主体の理科学習チェック8項目

- ① 子どもが主体となって問題を見いだしているか。
- ② 問題に正対した予想や仮説の設定をしているか。
- ③ 予想や仮説を検証できそうな観察、実験の計画を立てているか。
- ④ 目的に応じて適切に観察、実験を行っているか。
- ⑤ 観察、実験の結果を適切に処理しているか。
- ⑥ 観察、実験の結果と予想や仮説を照らし合わせて考察し、自分の考えを表現しているか。
- ⑦ 問題解決を通して、科学的な言葉や概念として知識や技能を獲得しているか。
- ⑧ 獲得した知識や技能を活用して、実際の自然や日常生活の中で適用したり、分析、判断したり、批判的に考察したりしているか。

＜福島県教育委員会 理科学習指導プランより＞

2 体験活動と言語活動が織りなす理科授業の流れ



＜福島県教育委員会 理科学習指導プランより＞

理科の授業においては、問題（中学校では課題）設定の段階で身近な事物、驚きのある現象を提示するなどの工夫がされます。

しかし、子どもたちは、教師が提示する事象・現象に興味をもつものの、そこから問題を見出しそれを解決しようとする意識まで高まっていないことがあります。

子どもたちは「問題の把握設定」の際に教師が提示する事象・現象をおもしろいと感じながらも他人事と捉えてしまうのです。

そこで、問題意識を醸成自分のこととして捉えさせる場面として言語活動が重要となります。

※パート2は言語活動Ⅰ・Ⅱの説明をします。